

No.003
2019.10

すたんどばいみー News Letter

ばいみー通信



代表挨拶

木々の梢も色づいて、気持ちのいい秋風が吹き渡るころとなりました。6月に総会を終え、すたんどばいみーの一年を無事スタートさせることができました。今回の通信では6月から9月の活動をお知らせします。

前回の通信の冒頭文では、改正出入国管理法の成立に触れました。一時はメディアで取り上げられましたが、それも一瞬のことでした。日本社会の日常には「外国人×労働」がすぐそばにあるはずなのに、見えなき者とされ、聞こえない声とされるには、早すぎま

す。人がそこにいるということは、そこに生きているということではないのでしょうか。

すたんどばいみーの活動の幅が広がるにつれ、他団体との交流や発信の場も増えてきました。一方で、昔から変わらない小学生教室や中学生教室などの日常の活動も途切れることなく継続されています。日常を日常としていくことの困難さと大切さを両手に抱えながら、「そこに生きている、その人のそばにいる。」というメッセージを、社会に発信していきたいです。

REPORT

事業報告

定期総会

NPO化3年目を迎えて

NPO 設立後の第2回目の定期総会が6/16@イコーザで開催されました。2018年度の事業報告では外国にルーツを持つ青壮年のお話会が実際されたことなど新しい取り組みもあったこと、また、運営メンバーの就職や転職、企業からの独立などから今までの活動形態とこれからの模索することになったという現状の課題についても報告されました。

NPOとして3年目を迎えた2019年度に入ってから、親愛塾と交流・フィールドワークを開催し、外部団体への発信や連携をより一層強めネットワークを形成していています。また、本

年度は新たな助成金として「かながわ国際交流財団 民際協力基金」および「公益財団法人パブリックリソース財団 移民・難民支援基金」からの助成が決まり、法人団体になったことの強みも生かしこれまでの活動実績が認められるようになってきています。

今後も様々な資源・ネットワークを活用し、外国にルーツを持つ子どもたちの居場所作りを作ると共に、地域団体や教育機関・行政との交流やワークショップなどを通じ、すたんどばいみーの活動の意義を唱え、問題提議をして多様な民族・人種が共生できる社会に歩みよれるよう普及活動も続けていきます。

REPORT

事業報告

子ども支援事業

小学生教室

新学期になり、子どもの参加が増えています。その理由は、ベトナム人の参加が多く親同士のつながりがあるからです。スタッフがベトナム人中心なので、言語の面で親に情報が伝わったり、相談に乗る事もできたりする為、参加が増えてきています。現在では、就学前から6年生まで25名ほどいます。

以前学校で学習したことが定着していない中で、進級してもわからないまま中学生にあがる子どももいます。そのため、低学年の段階でわからない所をスタッフが探し一緒に勉強する必要があります。子どもたちにとって、どんなサポートが必要かを考える為に、子どもたちの親に直接話や様子を聞いたりもしています。

日本の夏休みの宿題は、親に協力を求める内容が多く、外国人の子どもたちにとってはどうしたら良いかわからないことがあります。そのため、子どもたちからは「全部自分で丸をした。」という声や「どうしたらいいかわからない。」という声を聞きます。また、他の子どもからは、「これをやってどうするの。」という宿題に対する意味を問う声もありました。夏休みの日記を書く時には、話し言葉をそのまま文章に書いてしまうことがあります。それは、親や同学年との会話で話し言葉が定着してしま

書き言葉が定着していないからです。また、本を読む習慣や文章を書く習慣がないことがあるためです。

外国人の親は日本語が流暢に話せず、単語を繋ぎ合わせて喋っていたり、母語がメインになったりすることもあるので、子どもたちは家庭内で丁寧な日本語を聞くことや親から正しい文章の書き方を教えてもらえる場面がないため、子どもにとって日本語の文章を書くことが難しくなっています。

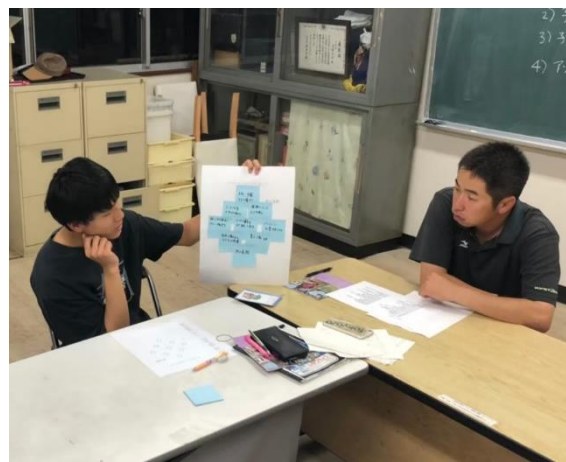
また、子どもの中には親の都合で帰国を繰り返し日本と母国を行ったり来たりする子もいます。そのような生活の中で、学校で習う内容が所々抜けていたり、会話がたどたどしかったりすることがあります。今後の課題として、各学年の課題や学習などをどんなプランで行うのか、日頃から考えていくことが必要だと思っています。



中学生教室「生きにくさを言葉にする」

毎週日曜日の19時～21時に開催しています。主に学習支援を行っていますが、新1年生が3人いるため学校の様子を聞いたり、相談を行ったりしています。また、月に1回程度NPO 法人国際権利センターC-Rights（シーライツ）と子どもの人権についての授業も行いました。

教室では、中学生1年生の一人が夏休みの宿題で人権作文を書いていたので、そこから得た知識を基に進めました。しかし、途中でペンが止まったので、外国人差別のことを自分の体験談に置き換えて書き始めました。その生徒は自分が外国人であることを嫌がっていました。その理由は、「名前で遊ばれる」、「母国に帰っても話すことが出来ず浮いてしまう」といった経験があったからです。教室に通う子どもたちは、両親は日本についてあまり理解していないので、ちょっとしたことで親子ケンカしてしまいます。そういった悩みを周りの人に相談しても、理解されない、相談相手がいないという現状があります。外国人の子どもたちが、家庭や学校で生じる葛藤に向き合える空間がまだまだ必要です。



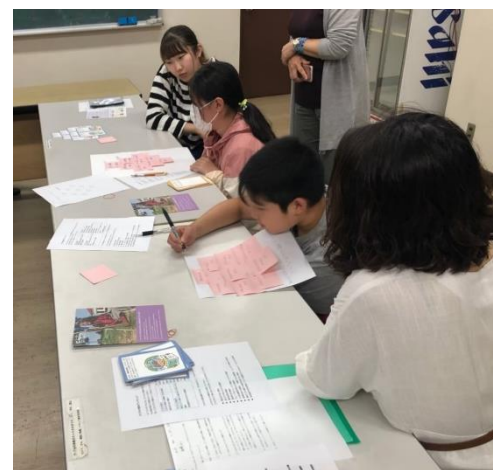
C-Rights×ばいみーの人権ワークショップ

NPO 法人国際権利センターC-Rights が講師として、子どもの権利についてのワークショップを3回開催しました。

参加者は、高校生～小学校高学年の8名です。ワークショップでは、「誰しもが持っている権利」をキーワードに、権利についての理解や自身にとって必要な権利を選択することなどをしました。

すたんどばいみーにとって新たな試みでしたが、自身は何者なのか考え始めた子どもたちにとって権利の学習は、日常と結びつかず難しいものでした。そのため、子どもたち自身の経験と照らし合わせられるように話をしたり、スタッフの経験談に結びつけて話をしたりしました。そのことにより、先生の教え方によって勉強嫌いになった、名前をいじることで自分嫌いになった、家事を任されることに不満を感じた、部活が生きがいであるなど…、子どもたちは日々感じている想いを語ってくれました。

学年に応じて理解の差はありましたが、子どもたちの日常生活に権利があるということを知ることができた会となりました。



REPORT

外国人大人支援事業

日本語教室「子どもとは違う、大人の課題」

日本語教室は2019年4月から、第一日曜日に講義形式で開催するようになりました。3月までは、テキストを使用して日本語の学習をしていましたが、日本の生活に適したものが少なかったため、現在は日本で生活していく上での学習に切り替えました。また、生徒さんから生活に根付いた質問が多かったことも背景にあります。

講義の内容は、外国にルーツがある成人の方にとって、日本で生活していく上で学ぶ必要性があるものを考えたり、生徒さんに学習したいことを聞いたりしながら検討しています。実際には、同じルーツをもつ人同士で地域内の交流を考えて「花見」をしたり、「税金の仕組み」や「ごみの捨て方」などについても講義をしました。他にも、病院についての学習もしました。保険等の制度の利用や、日本語がわからないという理由で病院に行けない実態がある

からです。また、国や県による外国人の方に対する文章の翻訳や相談機関が少なく、入ってくる情報の乏しさが課題となっています。

これから、日本で生きていく中で、外国人としてどんな困難さがあるかを念頭に置きながら、日本語教室を開催していきます。



REPORT

多文化共生事業

「アジア人権文化連帯「ノリト」メンバーとの交流会」

7月27日28日、私たちは3名の理事と1名の高校生スタッフで、神戸にある移住センターを目指して朝から横浜を出発しました。昼過ぎに移住センターに到着し、2年振りに韓国で移住背景を持つ子どもたちの支援活動を実施するアジア人権文化連帯のスタッフ2名と通訳者1名の方と再会しました。かれらは、国際結婚で韓国に暮らしている子どもたちの支援をしている団体です。今回の交流目的は、そうした子どもたちや仲間を引き合わせるという目的があり

ました。韓国側からは、移住背景を持つ11人の学生がワークショップに参加しました。学生引率と海外移動のせいかスタッフの方々から疲れが垣間見られる一方、学生はとても元気に過ごせている様子でした。ばいみー側の高校生は1人ということもあり、その人数と女子たちのパワーに圧倒され、ばいみースタッフにべったりの様子でした。

初日は、関西ブラジル人コミュニティー（略称：CBK）の交流が企画され、学生や小さな子

どもたちとゲームやダンスで遊びました。2日目は、神戸定住外国人センター（略称：KFC）と交流。KFC側は6人の学生が参加しました。そこでは、主にすたんどばいミーの発起経緯や高校生のM君からライフストーリー、クイズなども交えてのお話があった。自身のルーツをま

だ表明化できない学生もいたため、後半のグループワークで哀しくなってしまう場面もあった。今回の私たちの小さな交流が近い将来、大きな交流となりホスト国で外国人が生活しやすい取り組みに繋がる事を期待したいです。

REPORT

外国人大人支援事業

地域集会場で「地引網」??

7月21日（日）、大和市連合自治会の遠藤会長からの声かけにより、地元のロータリークラブが主催する地引網の企画に参加しました。しかし、当日は台風の接近に伴い海の波が大きく、おまけに小雨という天候に見舞われ、子どもたちとの念願の地引網は中止となってしまいました。ばいミーの10人の子どもと4人のスタッフが待ち合わせ場所に参加したが、会長さんから中止の連絡が入りました。十分に持ち物を揃えられた子どもたちや早朝早くに家を出たが集合場所を間違えてしまい結果的に渋谷中学校が一番遅く集合してしまった子ども、スタッフもイベントの中止に落胆してしまいました。

海には行けなかった代わりに大和市側にあるショッピングセンターの2階にある集会場でお食事会が企画されました。ロータリークラブの方々と参加予定のいちょう団地在住の外国人との交流です。私たちも子どもたちと参加しました。海で食べる予定だった料理が振る舞われ、おもちゃなどが用意されました。地引網を楽しみにしていた子どもたちであったが、たくさんの美味しいお料理とお友達との遊ぶ時間を過ごした事で、なんとか不満を聞かずにスタッフが安心した日曜日の出来事でした。

ロータリークラブの皆さん、自治会長の遠藤さん、ありがとうございました。来年もまた私たちを呼んで下さい！！

REPORT

コラム

帰国する子どもたち

夏休みに入ると「ベトナムいくんだー」と教えてくれる子どもや、帰国後に「ママのところでプール行ってきたー」と言う子どもがいます。今年も帰国をする子どもたちは多くいましたが、ほとんどの子どもは、「なにしたのー??」と聞いても具体的に出てくることはありません。「べつにー」、「〇〇語で聞けても

話せないから、おばあちゃんに怒られた。」など良い思い出ではない日もあったようでした。母国と繋がりをもってほしい、母語で話したい親や祖父母の想いは独り歩きをしまい、日本で生まれ育つ3世の子どもたちとの間の溝が深くならぬようにしていきたいですね。

すたんどばいミーでは、
サポートしていただける方を募集しています

正会員	1口	6,000円/年	入会金 5,000円
賛助会員	1口	3,000円/年	入会金 3,000円
学生会員	1口	1,000円/年	入会金 1,000円

〈振込先口座番号(ゆうちょ銀行)〉

(ゆうちょ銀行からの場合)

記号：10910 番号：17960271

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合)

店名：〇九八店(ゼロキュウハチ店) 普通 口座番号：1796027

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー



NPO法人 外国人支援ネットワーク
すたんどばいミー
STAND by ME

NPO 法人 外国人支援ネットワーク

すたんどばいミー

〒242-0007

神奈川県大和中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

TEL/FAX 046-272-8980

fsn.standbyme.2001@gmail.com

https://www.fsn-standbyme.org/